

ADULT ONLY R18



貴様の部屋
ARJUNA × KARNABOOK

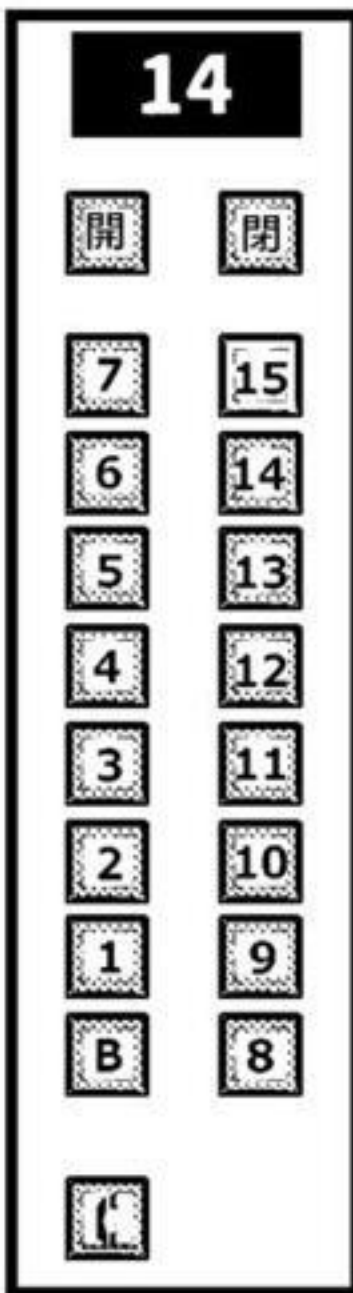
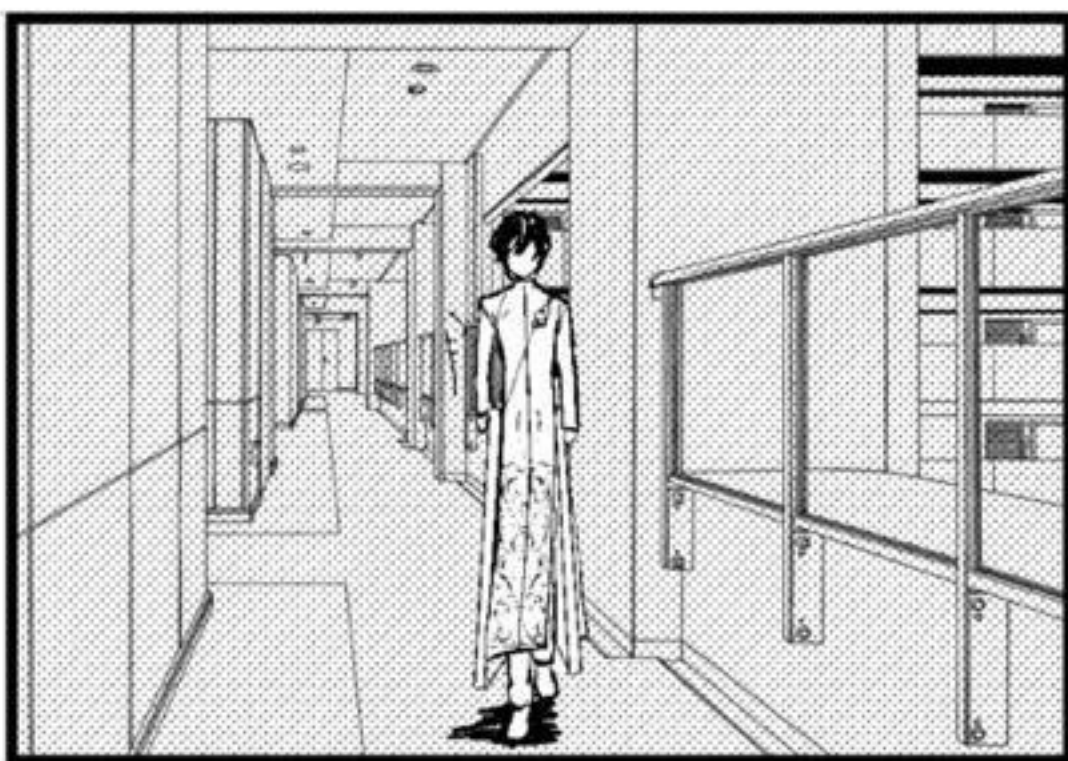
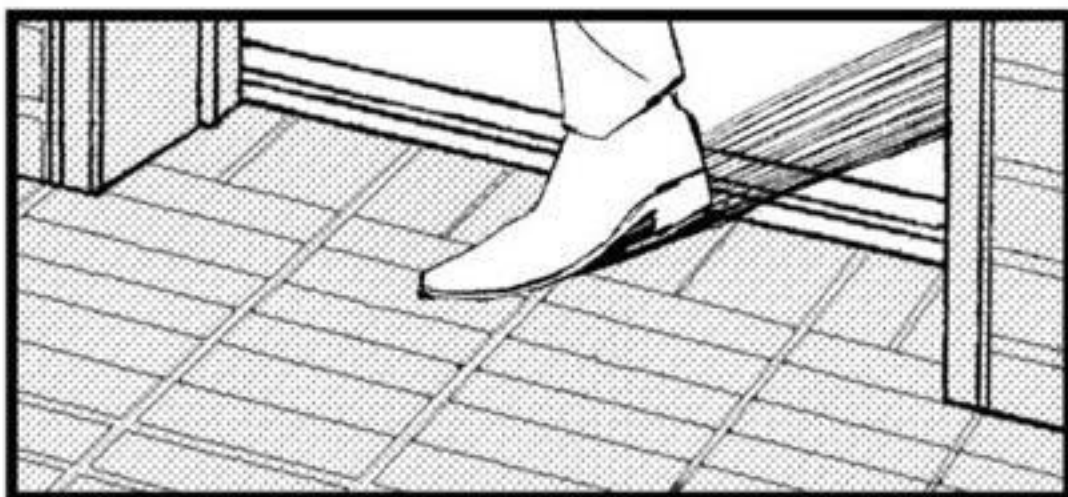
貴
様



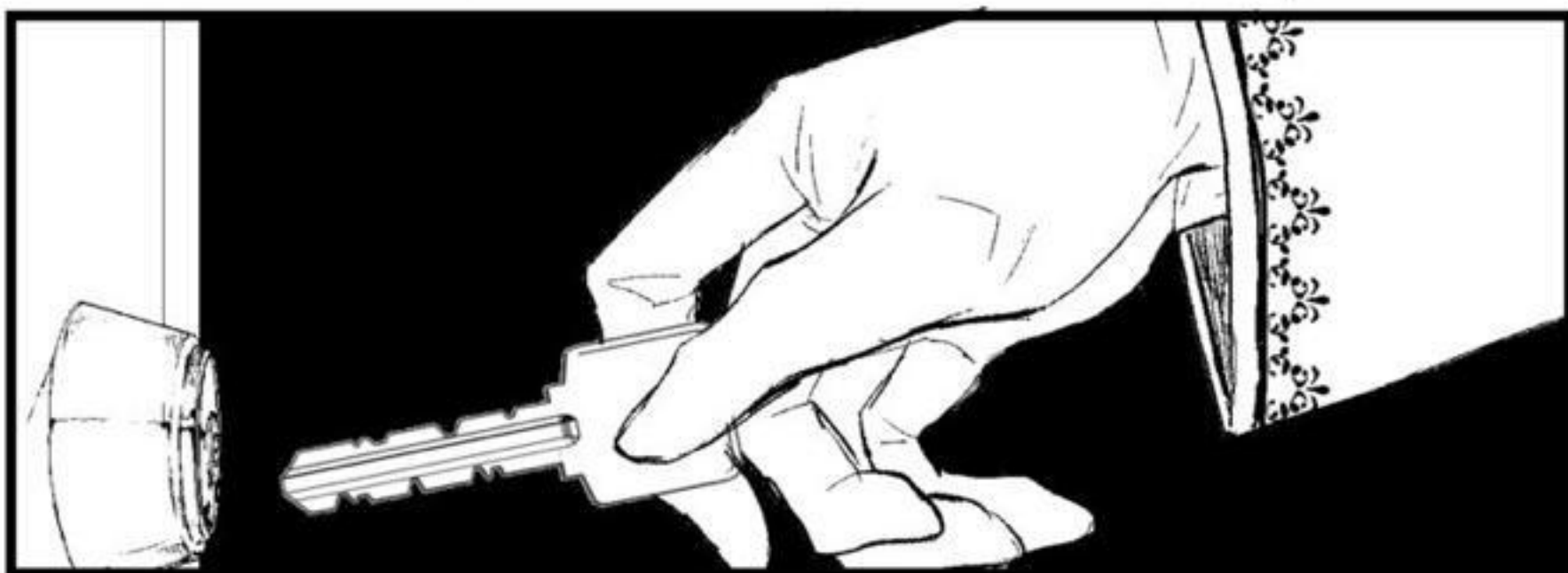
部
屋

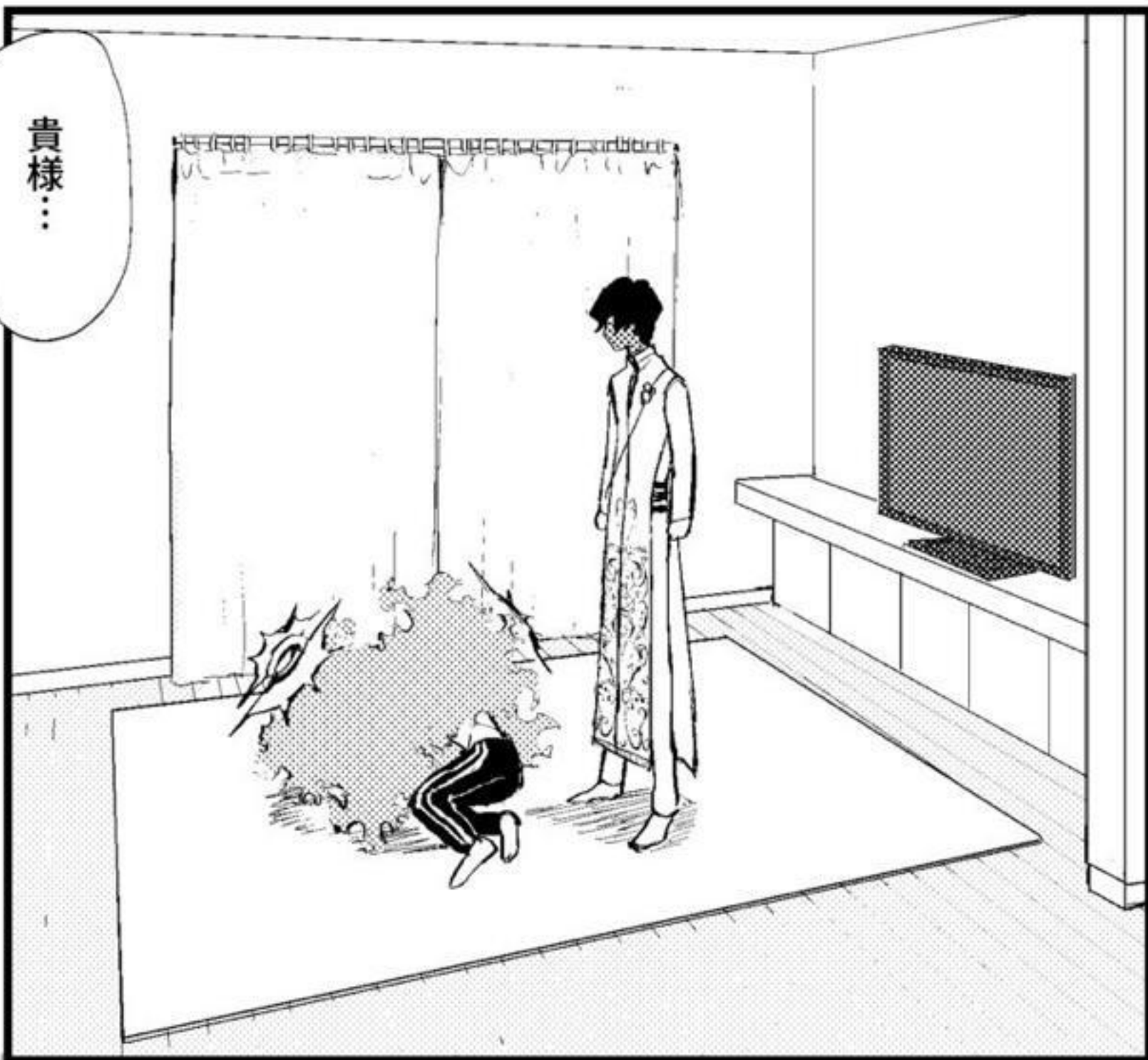
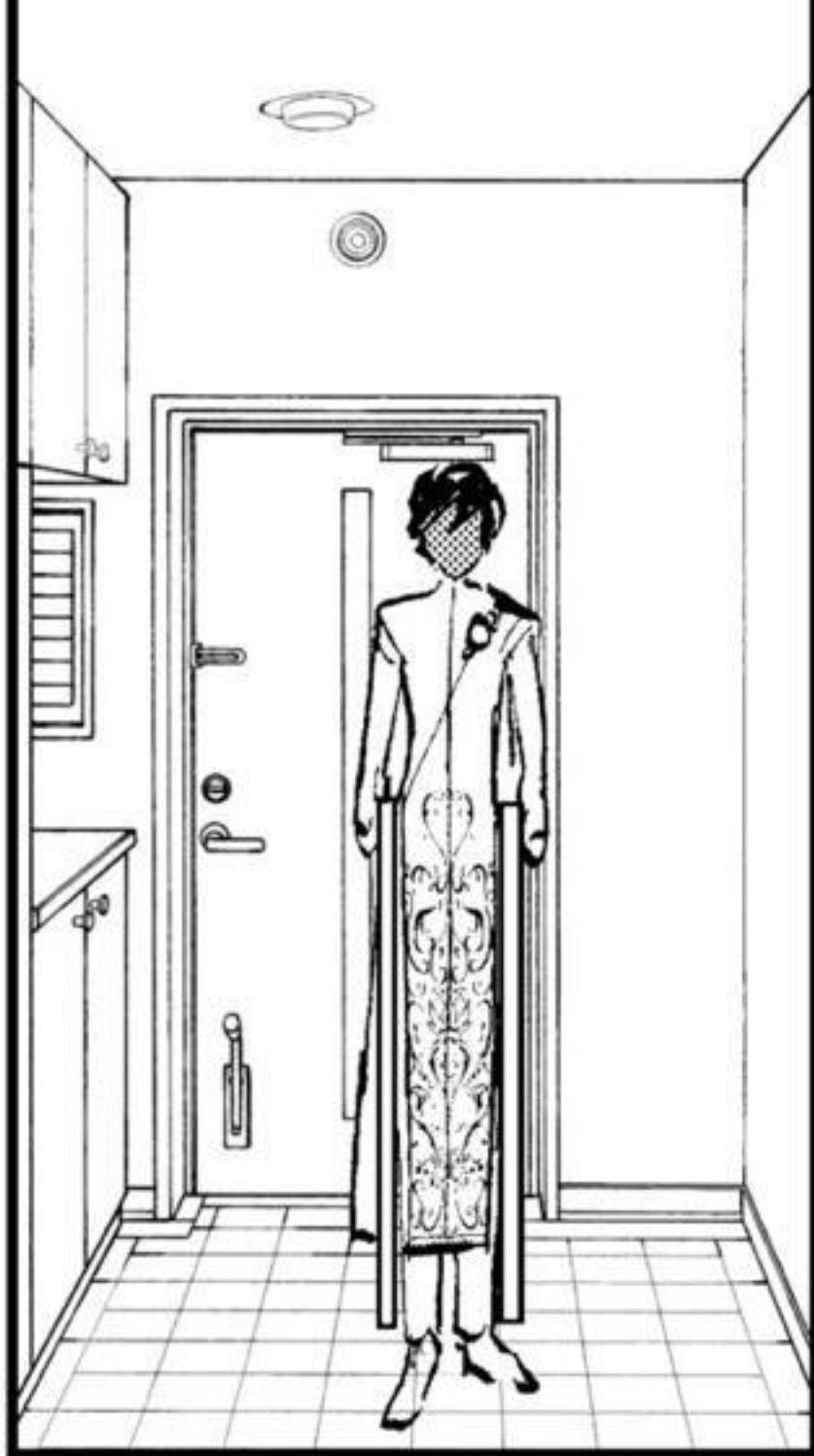
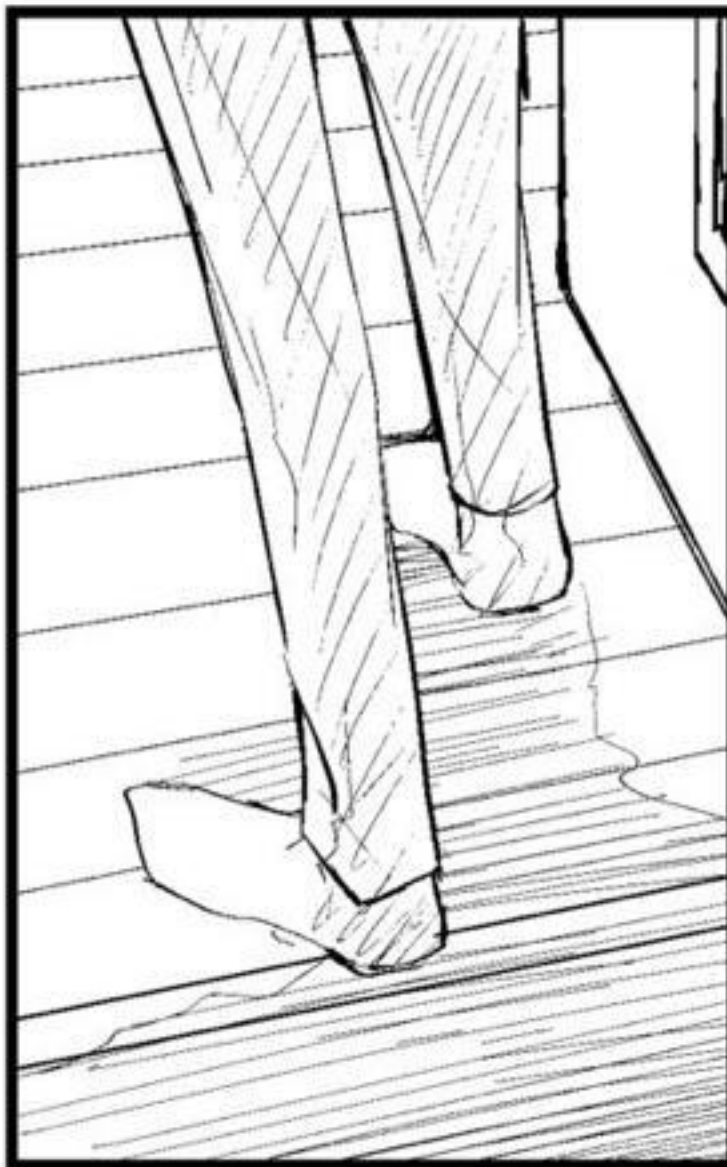
[貴様の部屋]

発行 たたみクルセダーズ
発行日 2019年2月24日
印刷 日光企画様
twitter @tatami3108
pixiv id=301701



か
ち
ゃ





なぜまた
床で寝ている

もうやめろと
行っただけだ

アルジュナそれは
お前がソファを撤去
してしまったからだ



ソファでも
寝るな!

ならばオレは
寝る場所
がなくなるな...

貴様用のベッド
を用意する

そこまでして
貰う義理は
ない



中々寝心地が
よかつたのだが...

な...ならば
私のベッドで
寝ろ!





決して…
そういう意味では…

っいや…



…

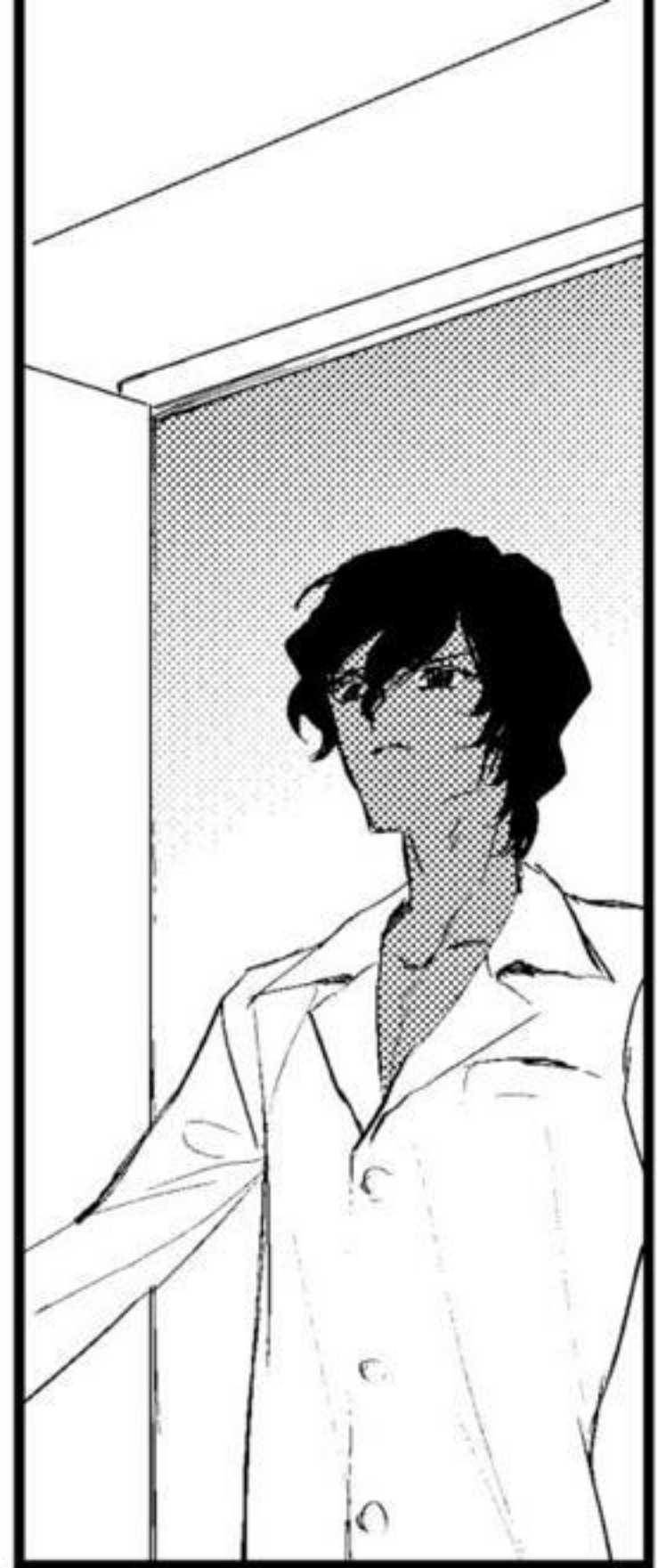
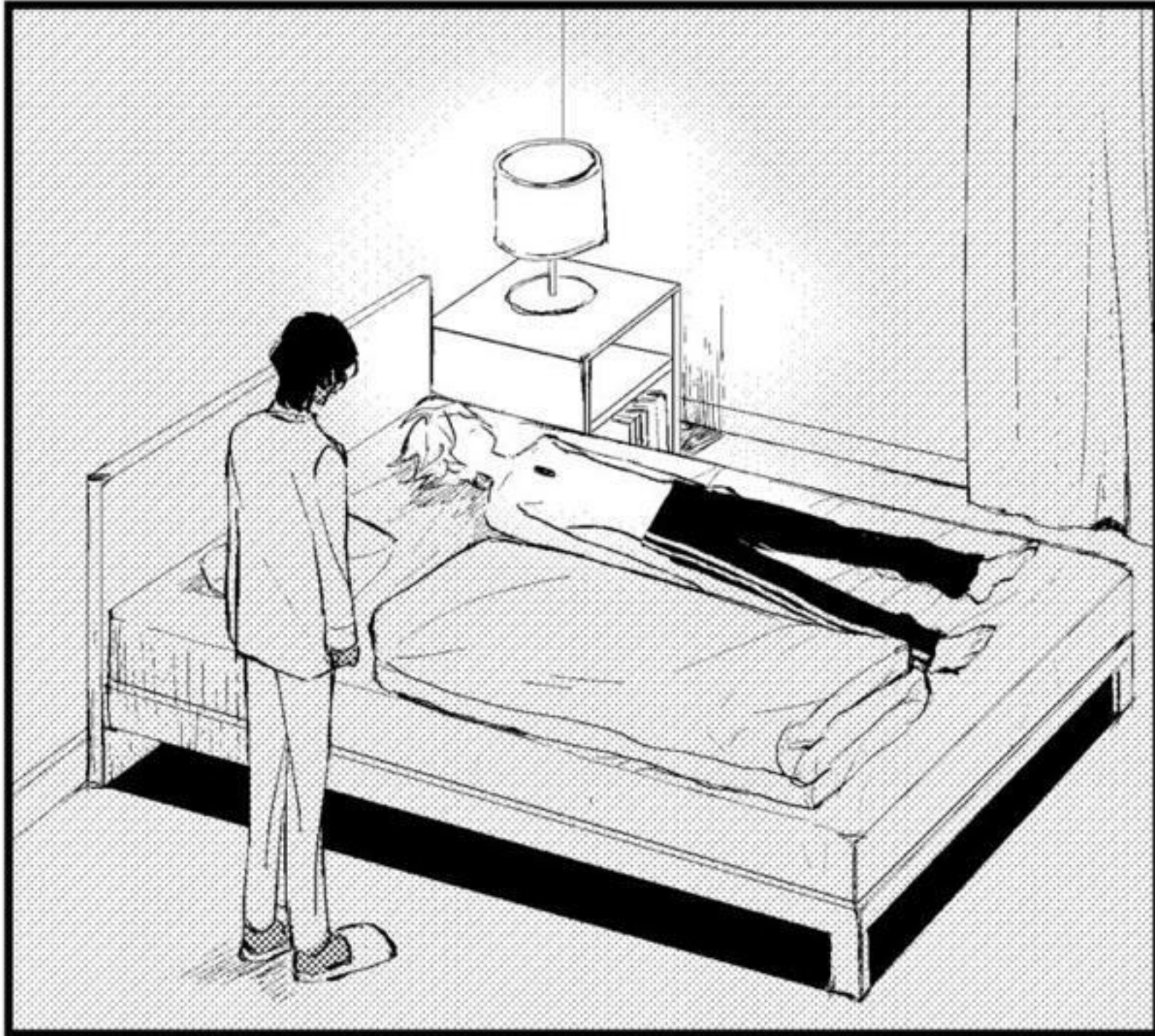


わかって
いる

だがまあ
そのだ
お前の
で寝よう
ベッド

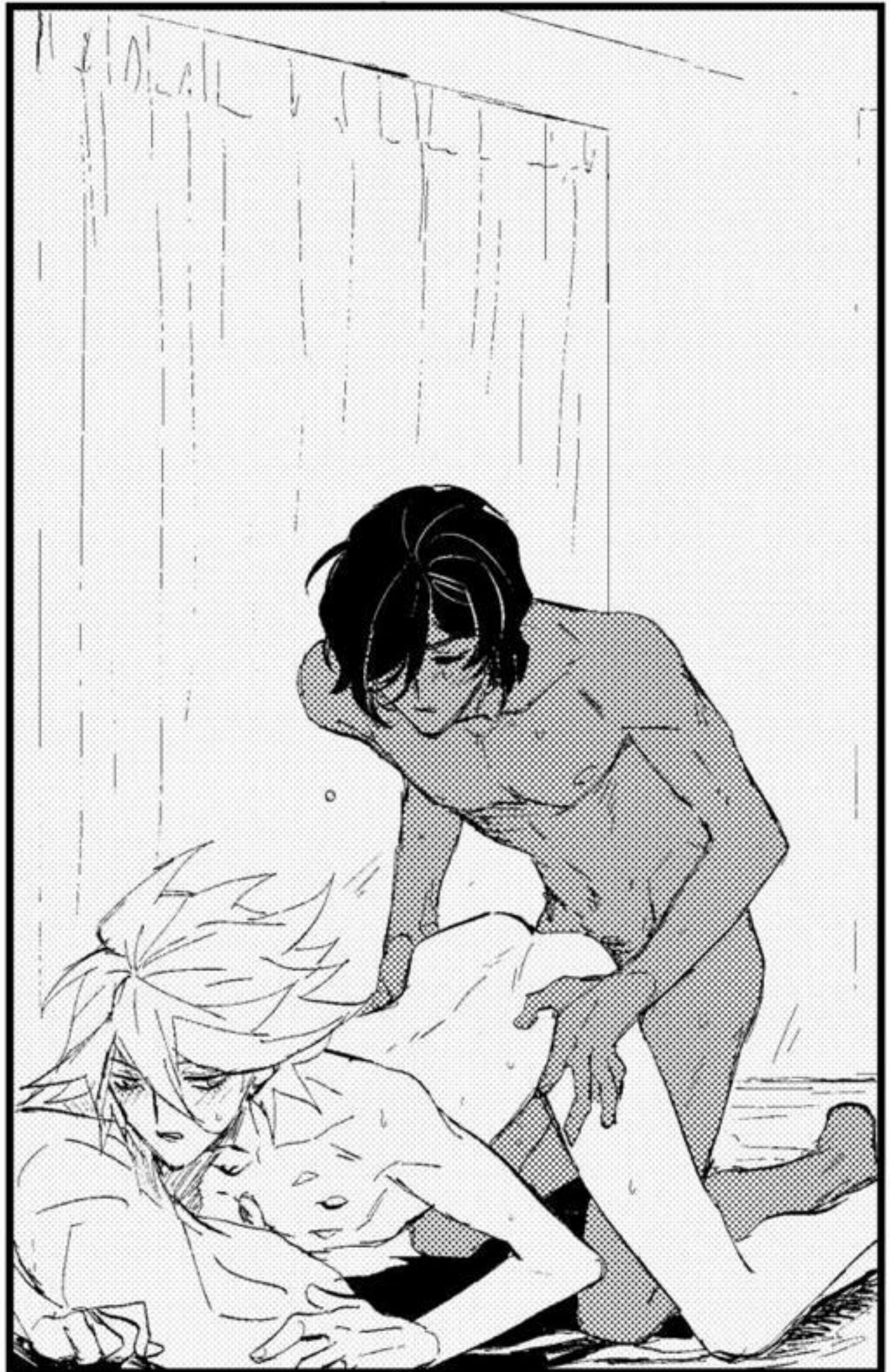


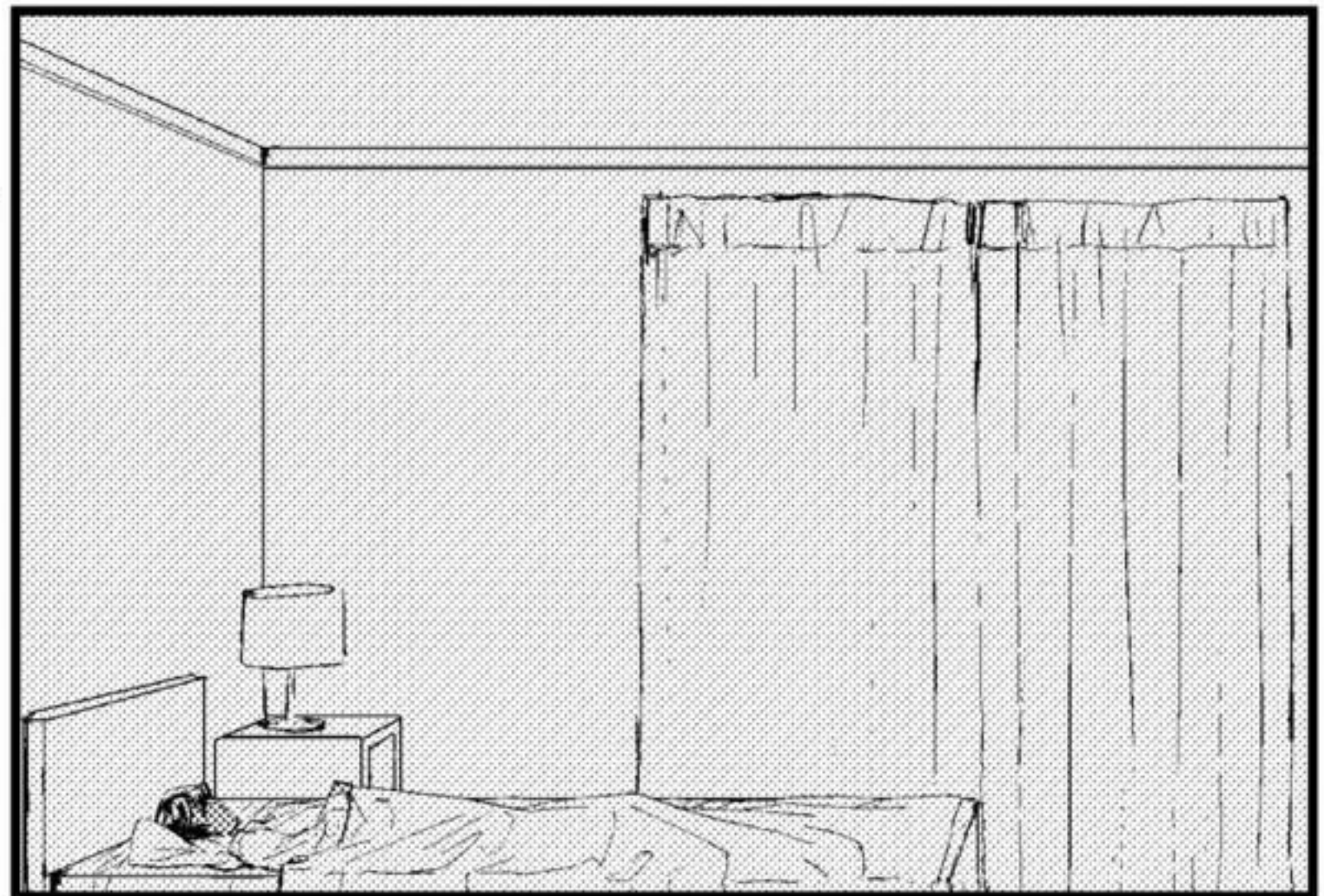
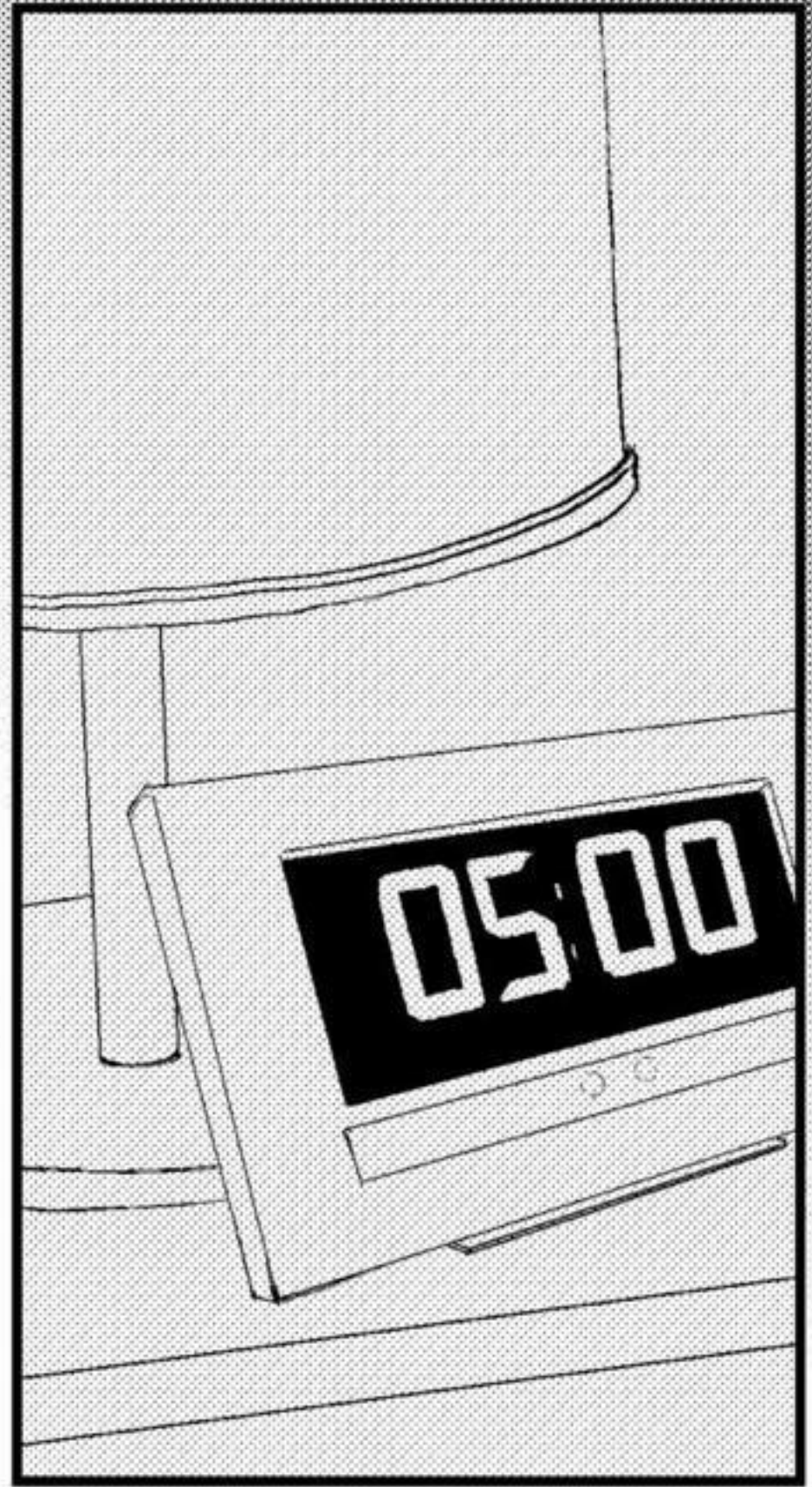
シャワーでも
浴びるといい

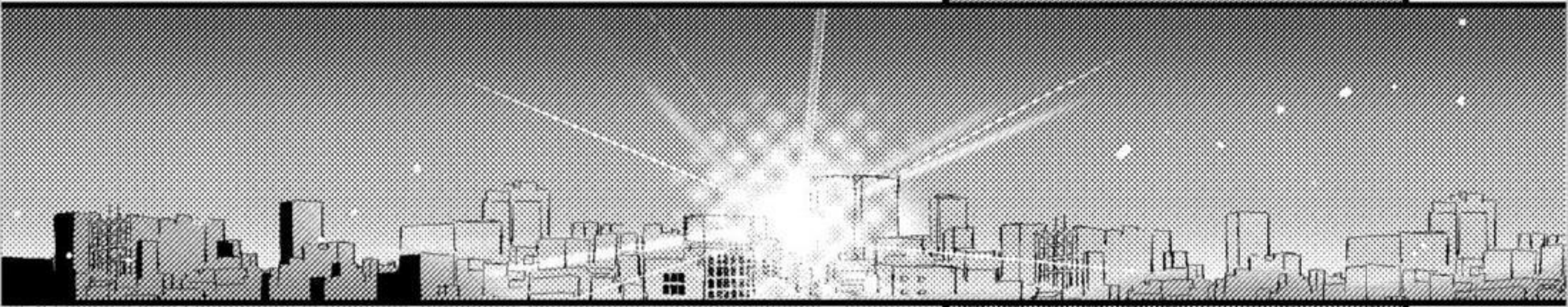


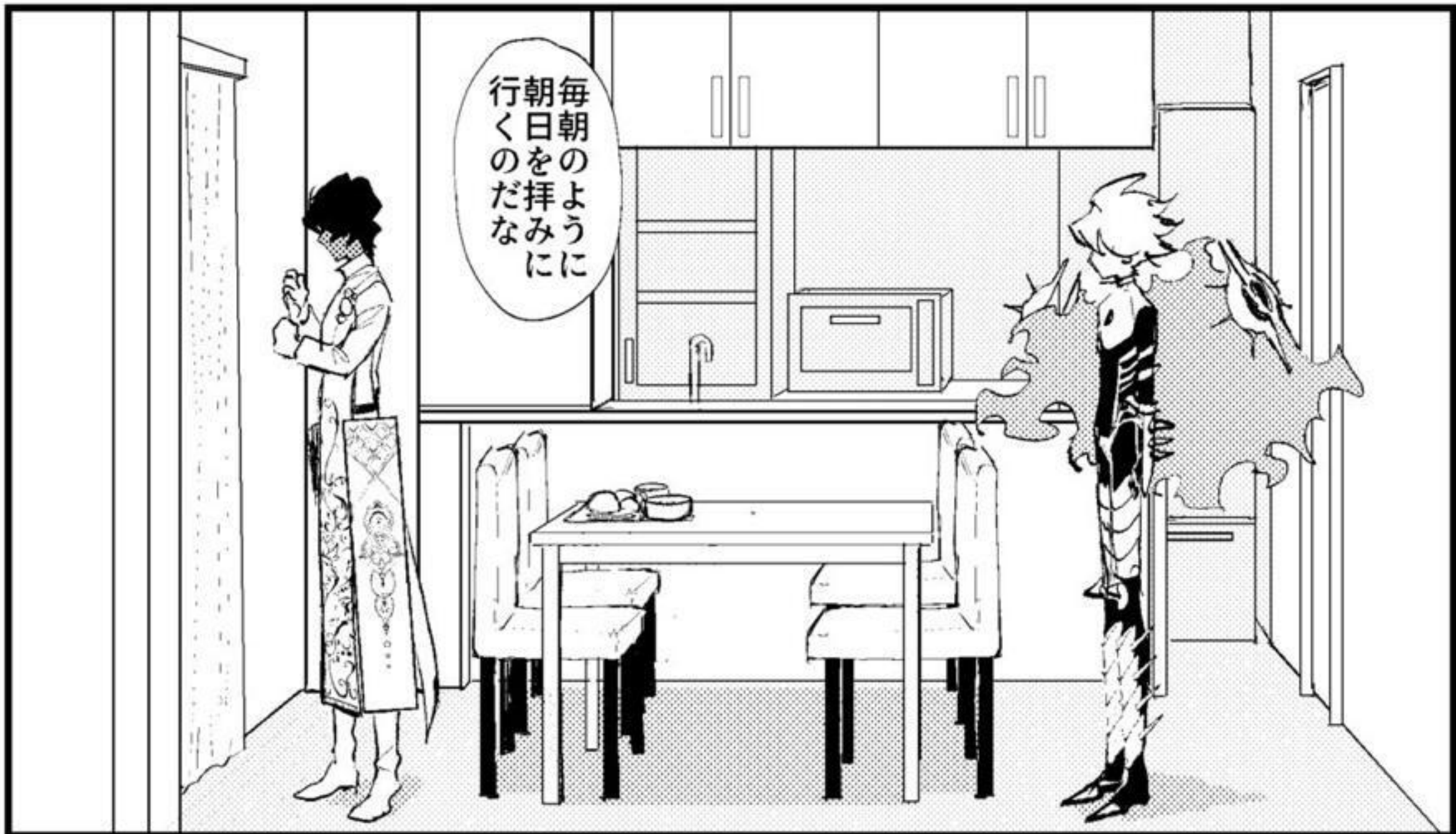














アルジュナよ
まさか

お前が
作ったのか？



ん？
これは…
朝食？



…
ああ…
ただの気まぐれだ
食べたければ
食べるといい



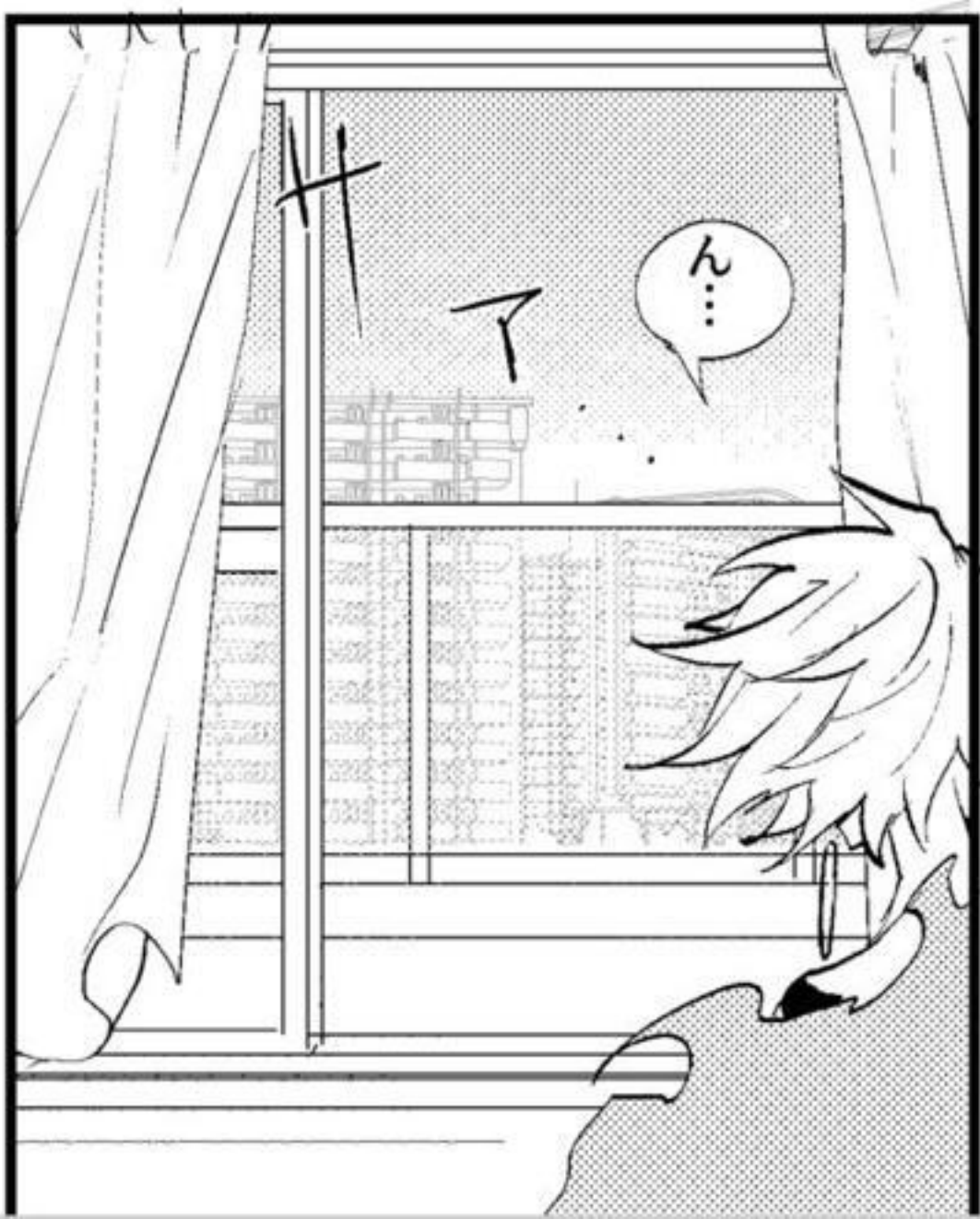
今日はマスターに
呼ばれていて
時間があるわけでも
なからう

しかし手が込んでいる
様に見える料理だ
お前がこうだった場合に
無駄を好むとは思えん
のだが…



ふむ…

気まぐれか…？
妙だな…



ん…



お前はオレと違って
食べる事が特に
好きでもなかった
様だが…

何故…



窓から
出ていった
のか...?

オレには
やめろと言っ
たのに...



お前様を
追いかけて
来ます...



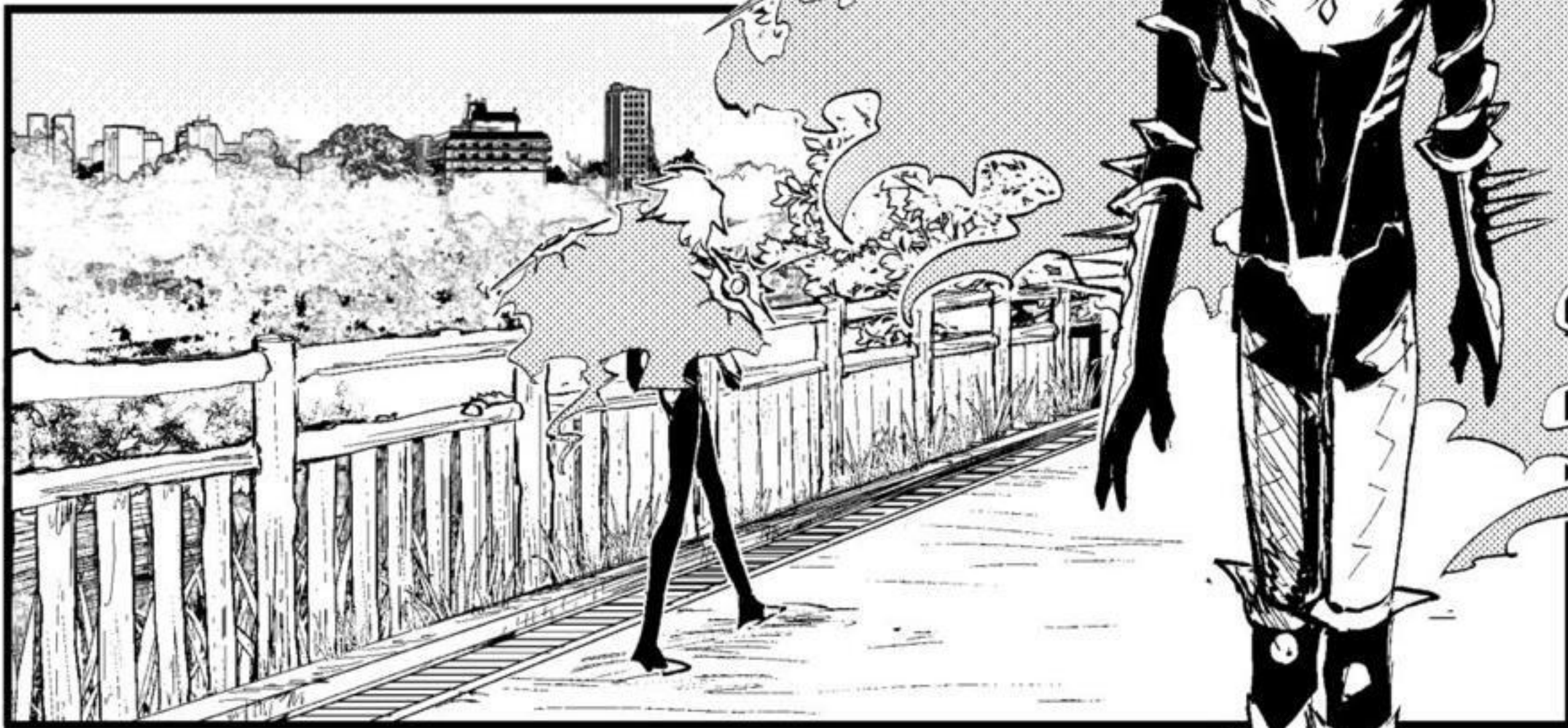
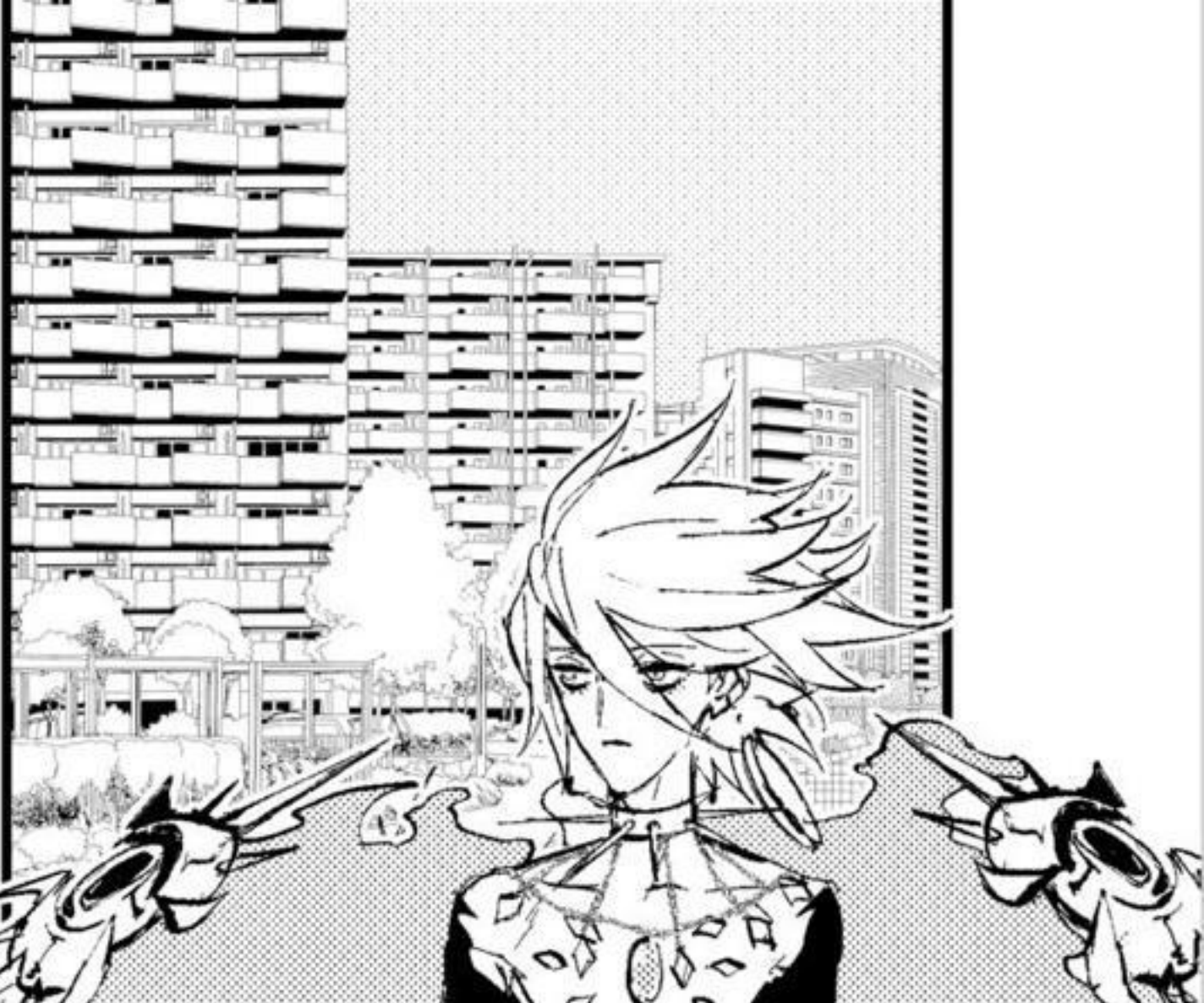
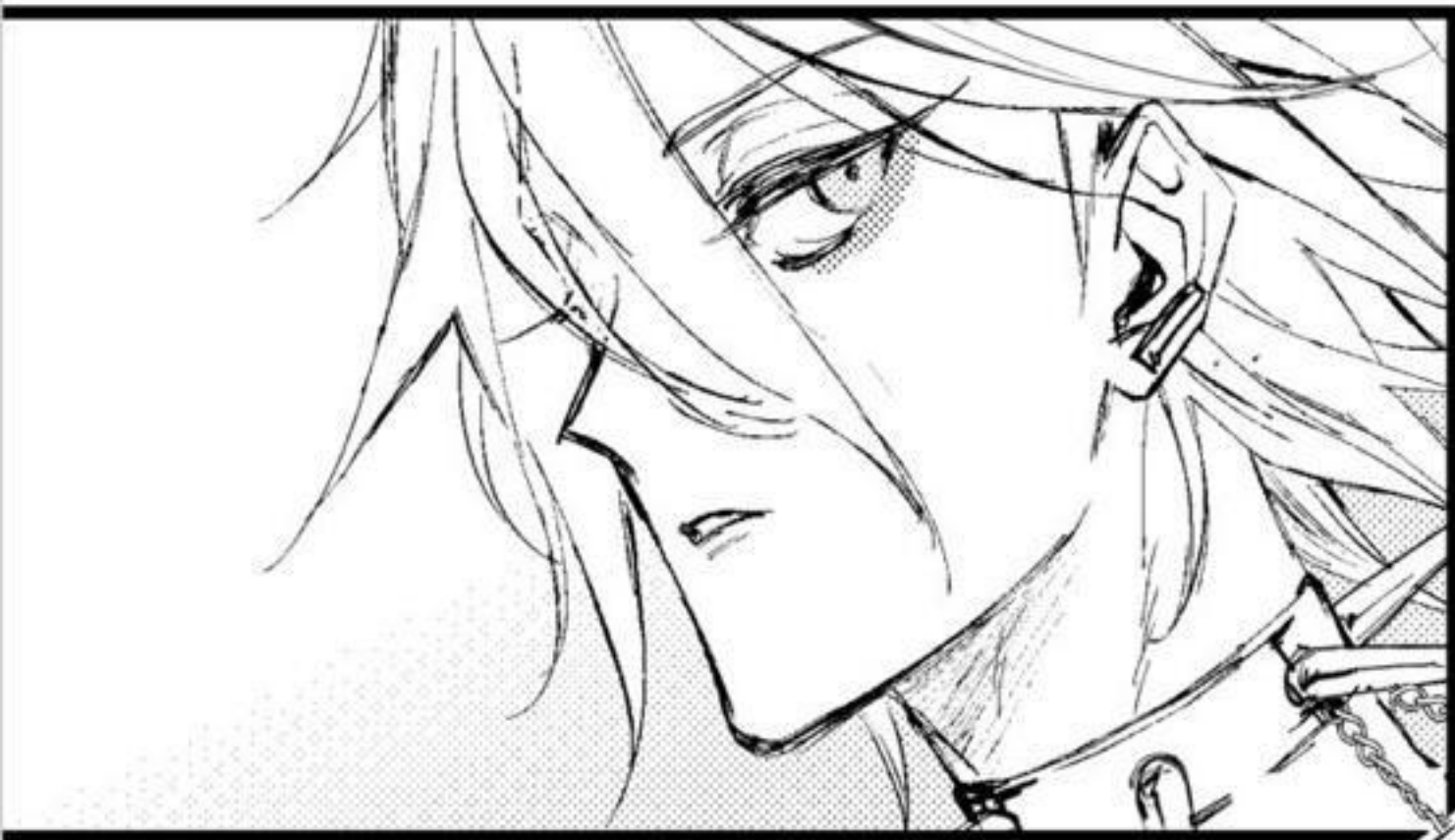
！
なに

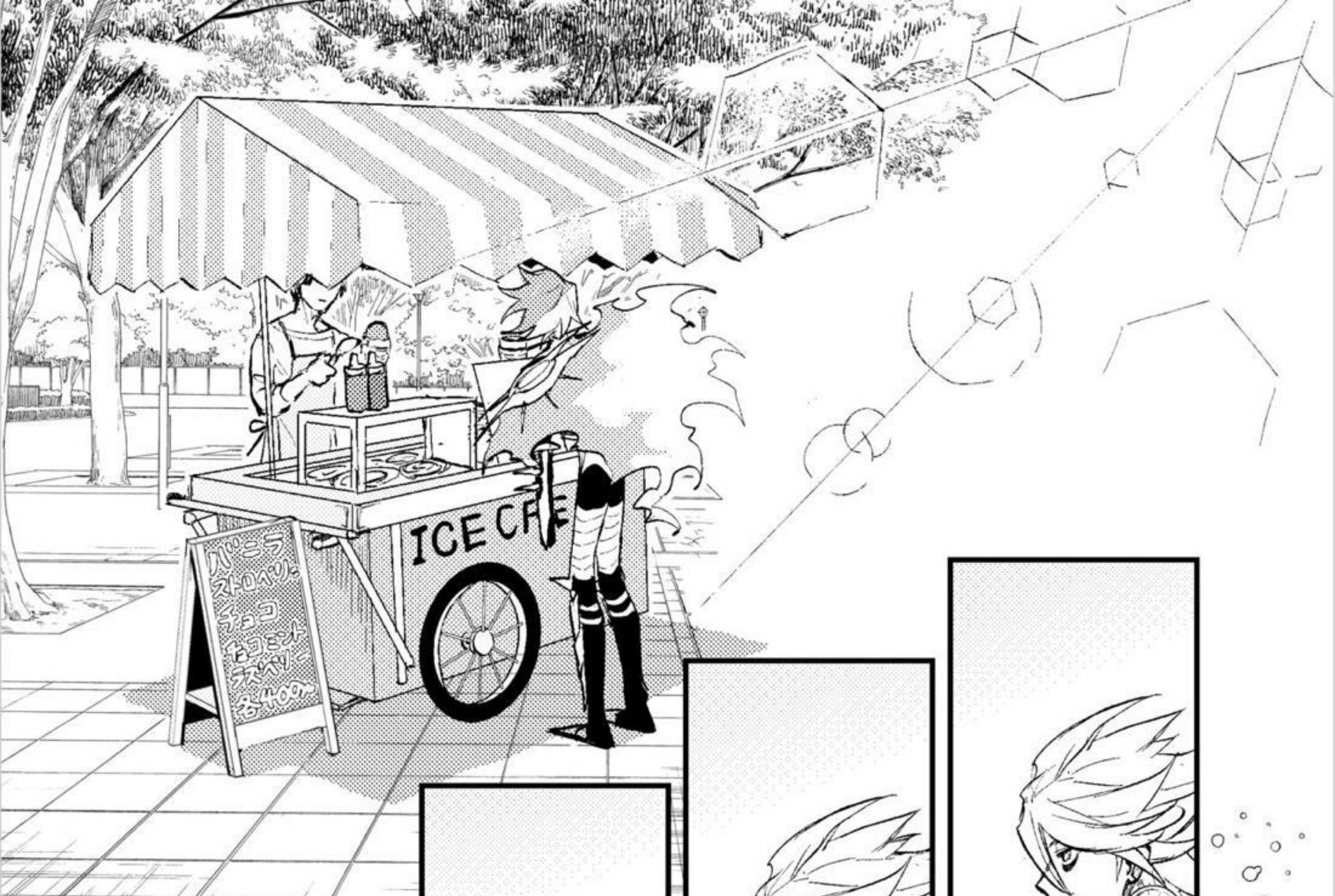


...あ...



はく
はく

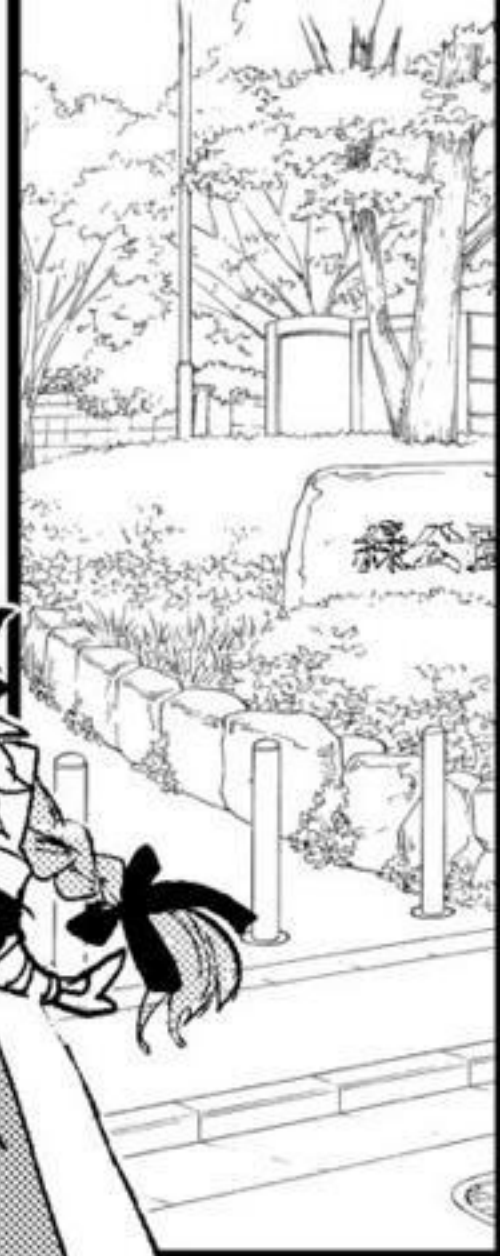






その様だ

アレって
ないかい？



おや？



おーい

ジーク
アストルフオ



ねえ
カルナ！

はっ

そーだ



ああ…

だほんと



どうしたのさ
こんな所で
ぼーっとして

ああここは
日当たりが
良くてな



代わりに俺を
誘ってくれた
んだ

実はジークを
誘いたかった
んだけどさ…
あんだけさ…
先約があつた
らしくてさ

こういう時は
人数多いほうが
嬉しいのさ…

ジークとジークは同居



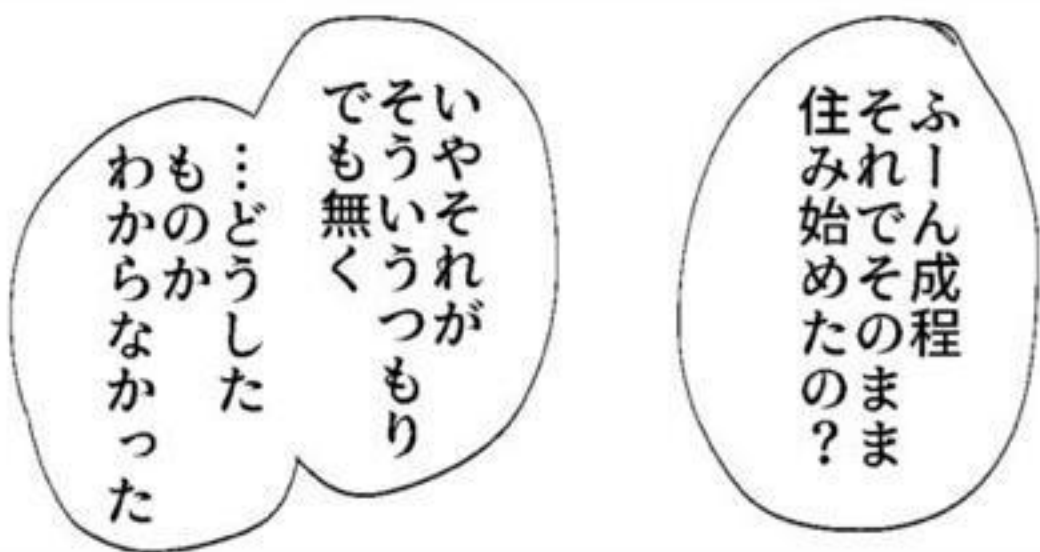
ボクらこれから
お茶に行く
んだけどさっ

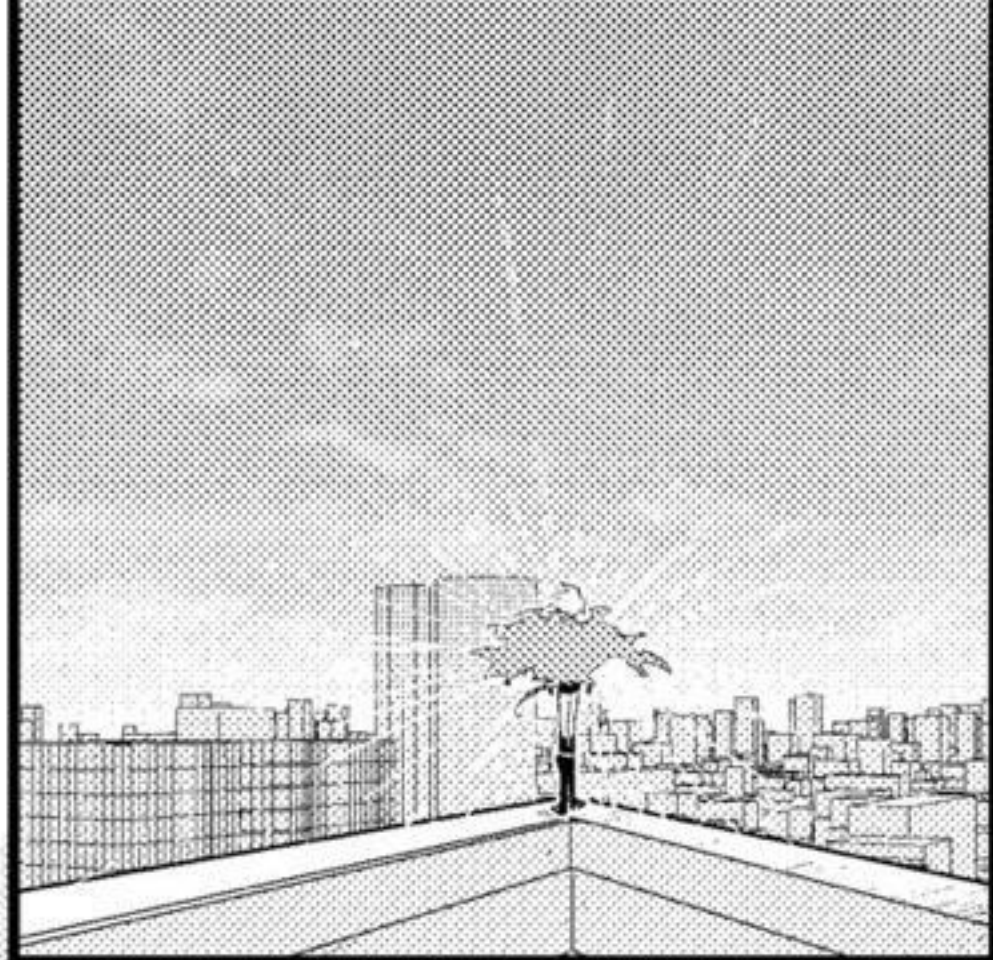
カルナも
どうだろうか

いいのか？









キラキラ



スーリヤ
よ……



カルナツ



アルジュナ……



貴様……何故
こんな所に……

こうしてオレは
アルジュナの部屋に
玄関から出入り
する様になった

承知した



窓から出ていく
のはよせ



朝日を見に来た

成程……
マキの
キョウジ
タリシ



いやまだ何も
おかし
だろうか

うん
ちよつと
違うかも

ふむ...



よく出来て
いたな



えっ! どう
だった?

そういえば先程聞かれた
件だがアルジュナと
食事をしたことはないが
今朝アルジュナの作った
ものを食べた



おいしかった

それだ!



いやいや...

もうとシンプルのでは
ないだろうか

そうだな...
真面目なアルジュナ
らしく盛り付けも
味付けも几帳面でかつ
華美な印象も

そうだな...

いやいや...



みんな
お疲れさま!

今日はもう
このへんで
終了しよう!



ああ
本当...

いやいや 今日ボクが
二のやいのかうの
人が静かに相槌うって
終わるの思ってた
けど後半は意外な
展開になったなあ



またぬ

またぬ



それなのに
留めておこうと
するような真似を
してしまうことも
あります

別段あの男が
出ていこうとする
気配もないのですが…

考えてみれば
それも妙な
話ですね



アルジュナは
どうして
それでもカルナ
と暮らして
いるの？



何故なの
でしょう？



ご存知のように
私は常に正しい
存在であります

けれどあの男を
前にすると
そうではなくなっ
ている自分に気づく

本来であれば
許せない事です



なぜか…

そうだ私は
それが何処か…

なのに…



ッ…



アルジュナ…？



はっ



………
見苦しいところを
お見せしました

そ
んな事
ないよ



あの…

オレにできる
事があつたら

二人のマスター
なんだし一応



ほう
例えば？

えっ



ええと…

あっ
いえ…
嬉しいです



ありがとう
ございます

話せただけでも
少し気が
晴れました



：こんな事
話せるのは
マスターだけ
ですよ

そ
う？
少し
嬉しいな

ええ
どうぞ誇って
くださいね

実際アルジュナ
と一緒にいる
というよりは

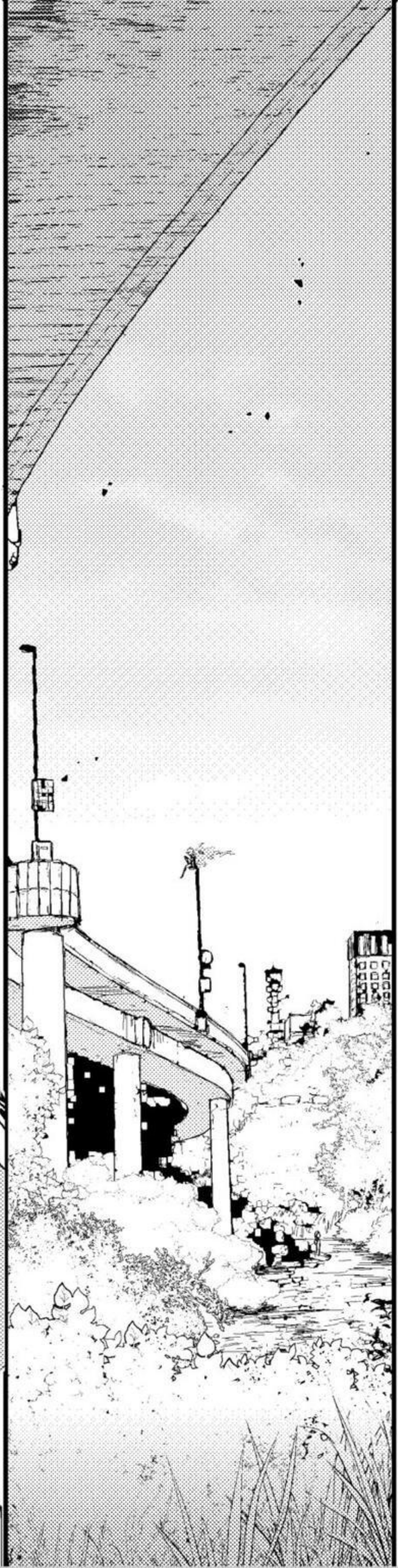
オレがアルジュナ
の部屋にだけ
いるだけなのだ

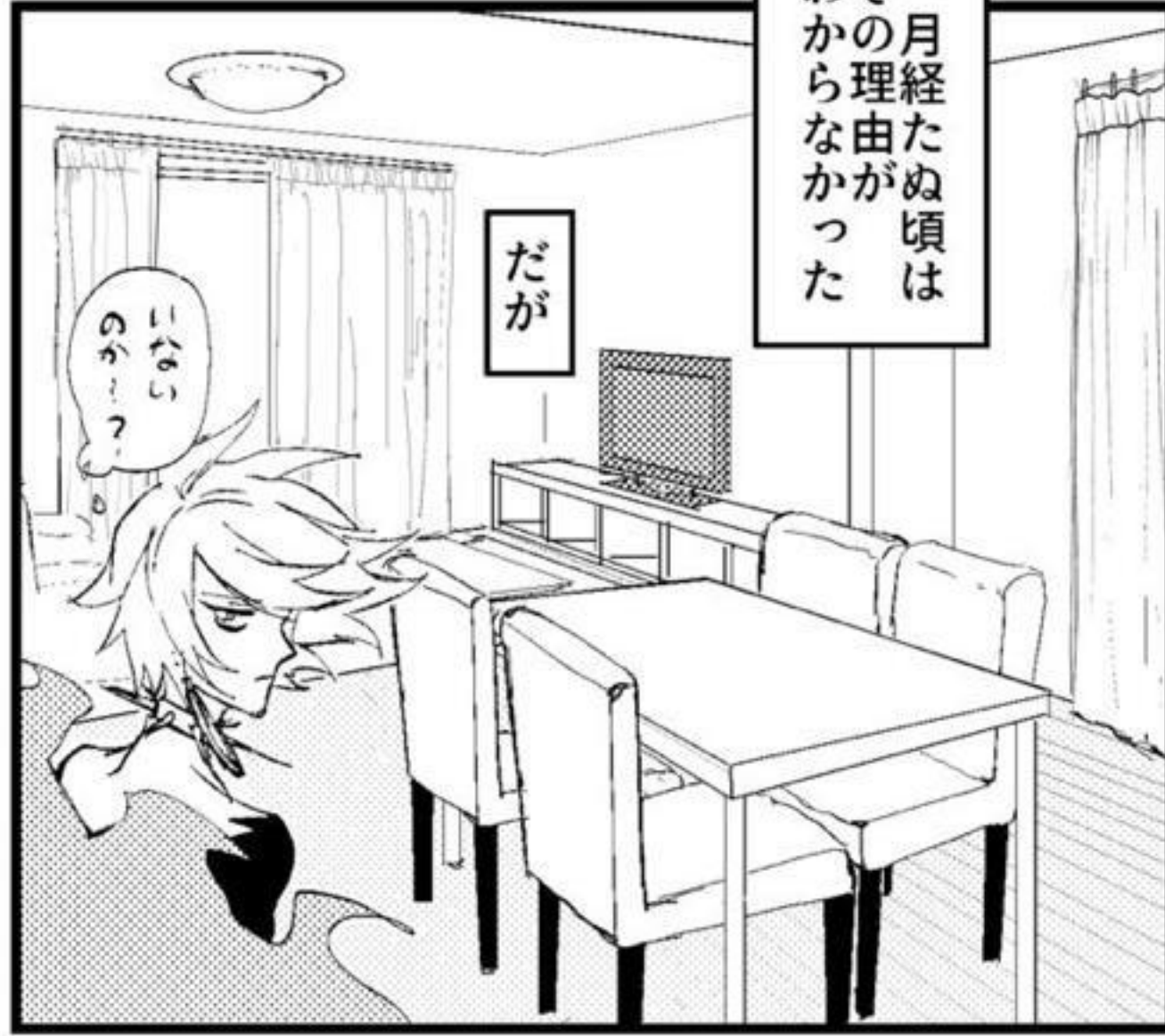
清潔で
良い匂いのする
部屋

あそこにある物は
全てアルジュナの
ものだ

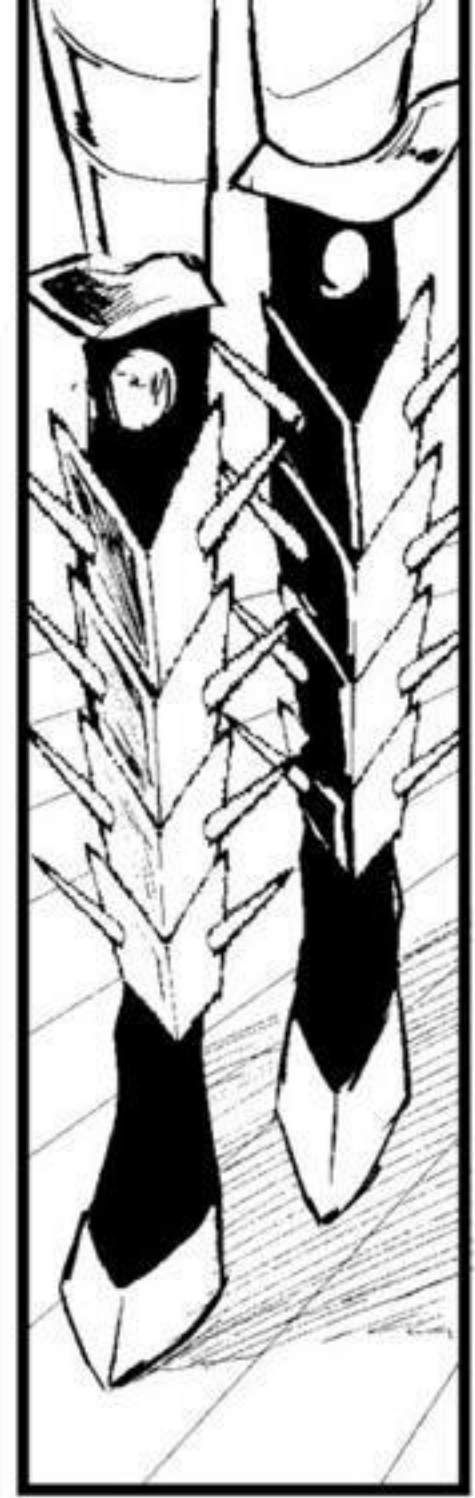
オレのもの
は一つも
何処にも
ないから
知らない

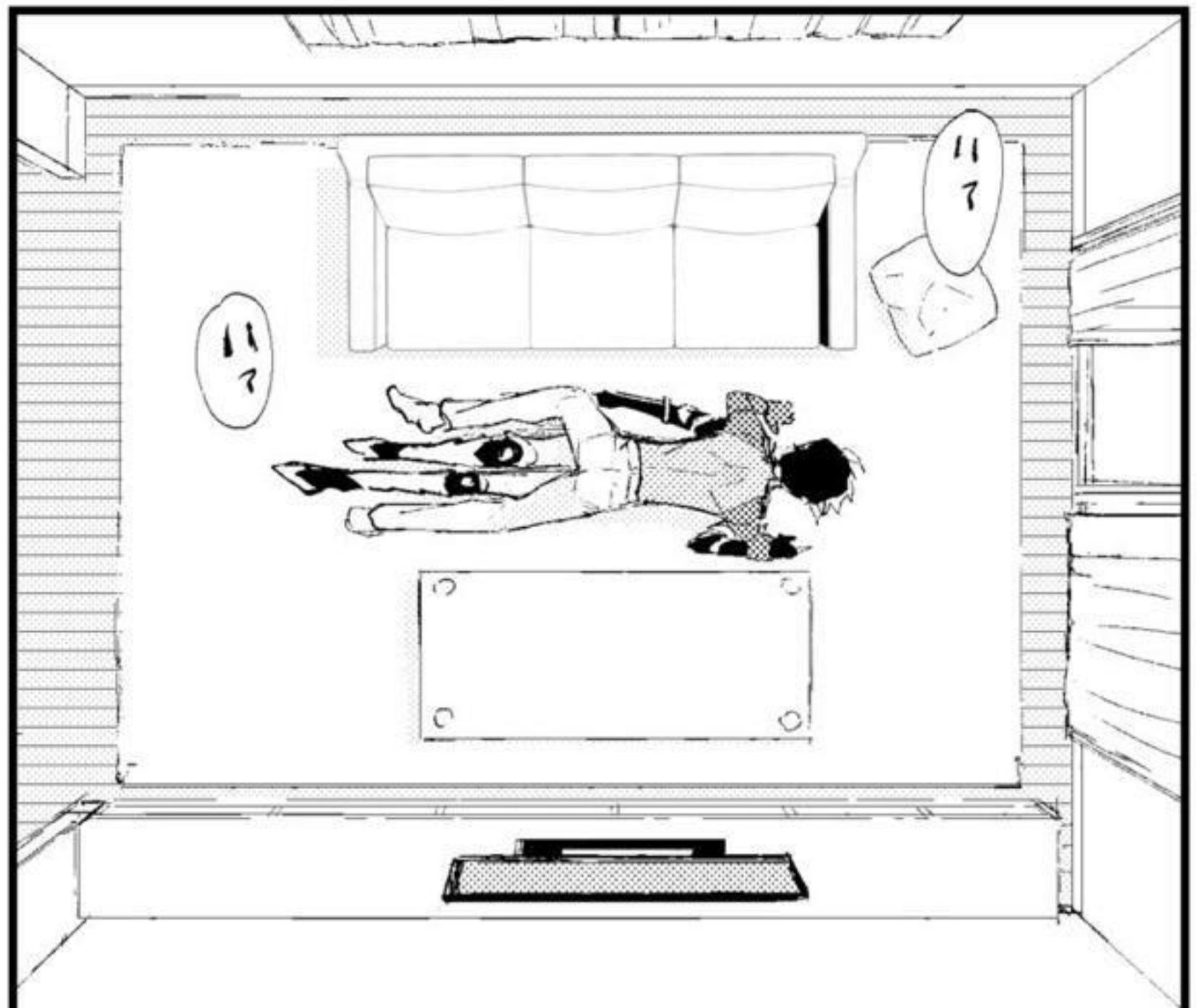
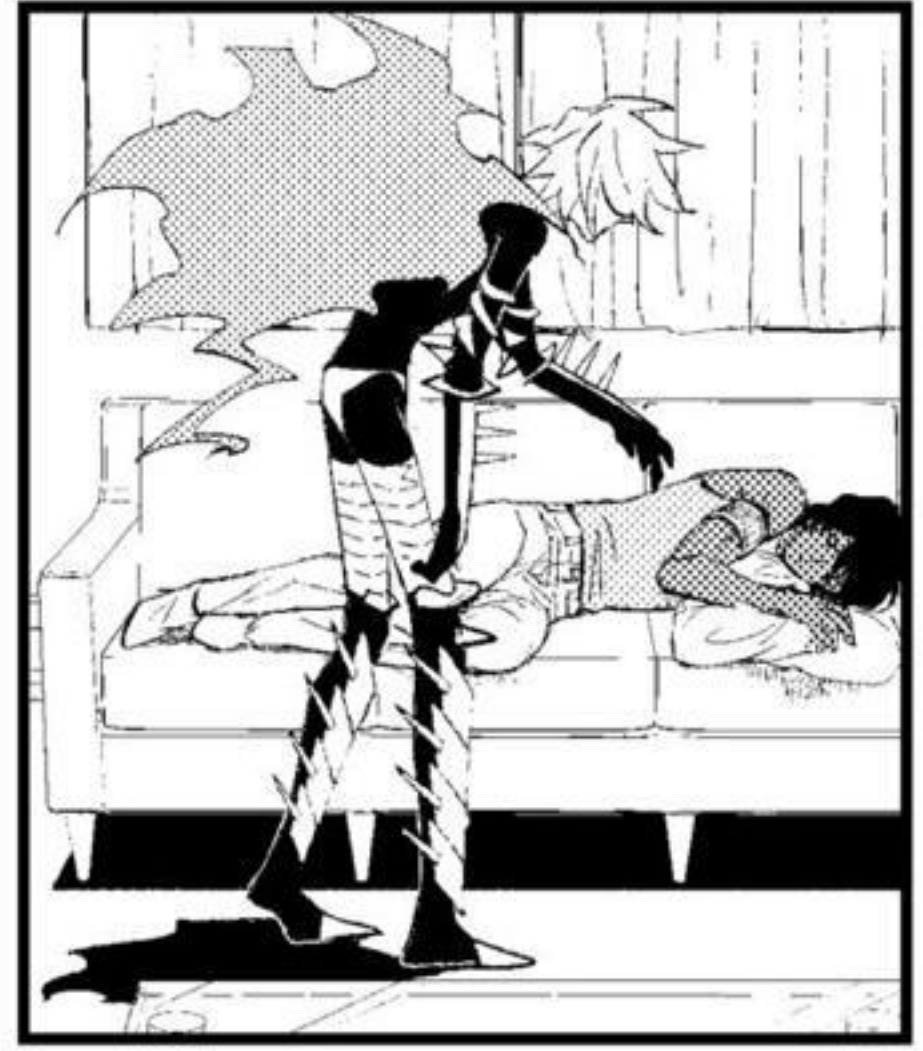
しかしオレはまた
あの部屋に帰る





その月経たぬ頃は
その理由が
わからなかった





オレの気配に
気づかぬほどに
疲れていたのか？

まあ無理もあるまい
帰る場所にはオレ
がいたのではな

休まる場所が
欲しいのならば
オレをここから
追い出すとい

連れてきたのは
お前なのだから

…カルナ貴様

私が簡単に
そう出来ない事
いるのだから？

アルジュナ…

……

……
ああそうだ

だがお前は
オレがここに
いるのも
嫌なのだろう？

オレ自身には
どうする事も
出来ない
お前が決めるのみだ





好きにしろ



さあ

決めるといい



貴様ッ

ああ、すまん…
思わず



ーッ……

…実に感動的な
体験だった

他にもない
アでもナ
奪われたい
求められた
求められた



……

オレはこの
男に求めら
れたいが…
男に求めら
れたいが…
好きなのだ
ろうが…



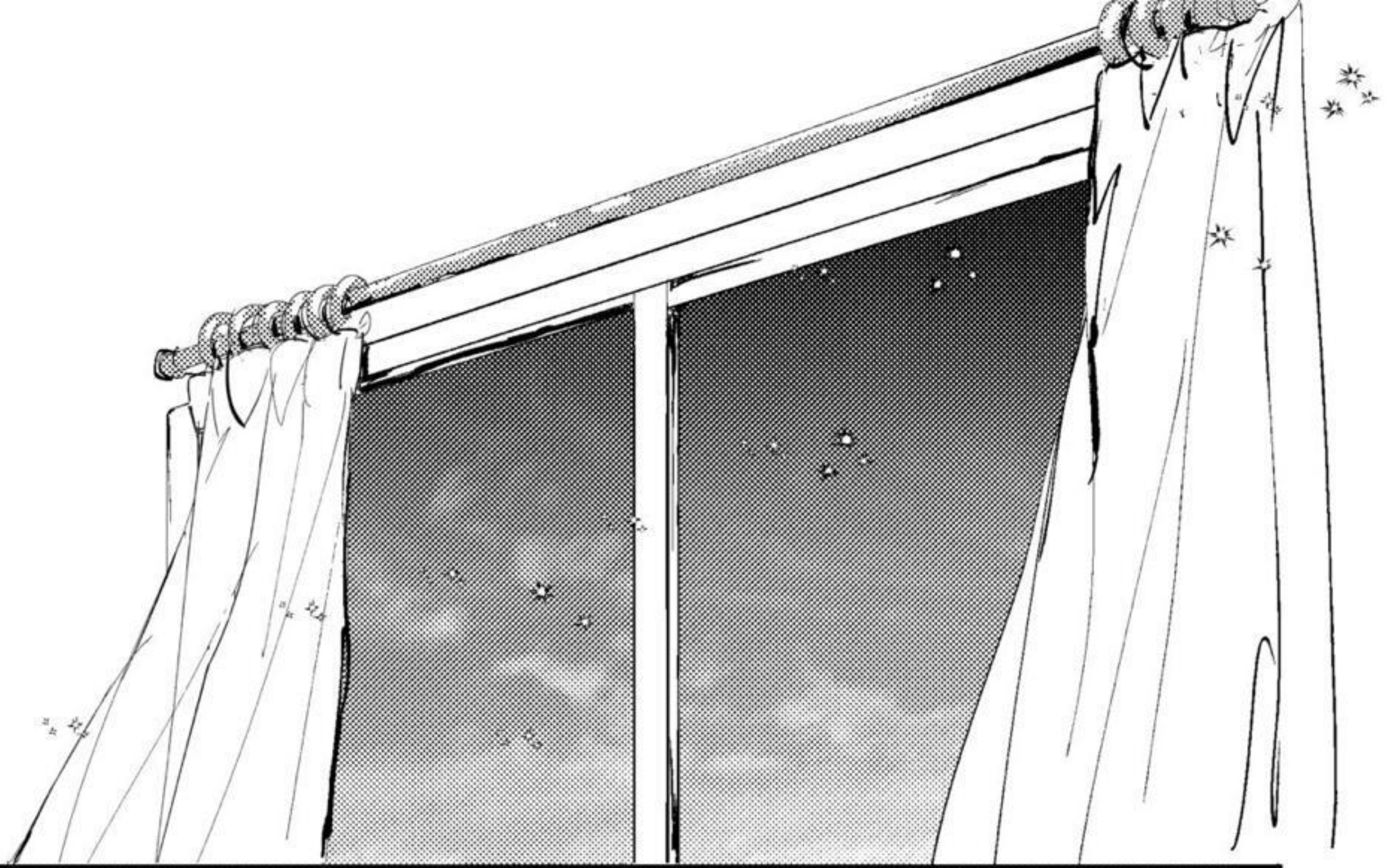
アルジュナの
心の中にオレが居る
ことをとても
嬉しく思う

全て
アルジュナの
要素で出来た
この部屋

ここに居れば
アルジュナの
心の現実にいる
自分が出来た
事が見える
気がなる

だから毎日オレは
この家に
帰ってくる

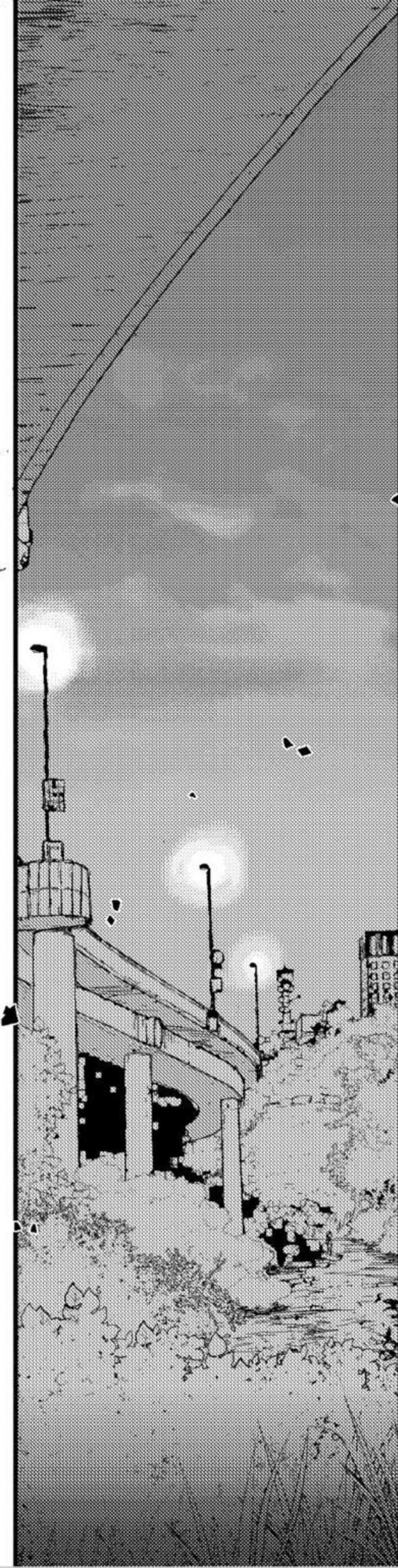


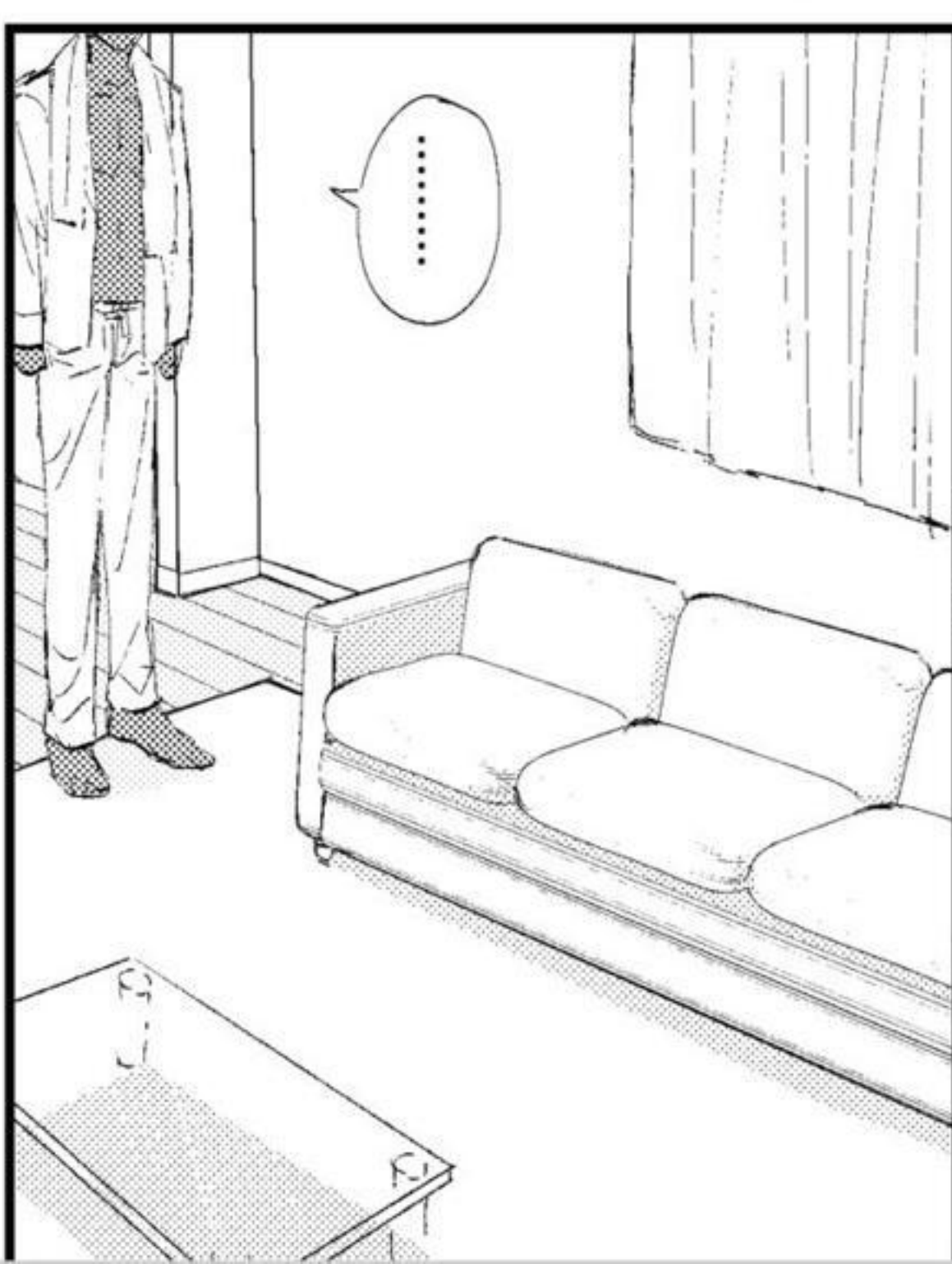
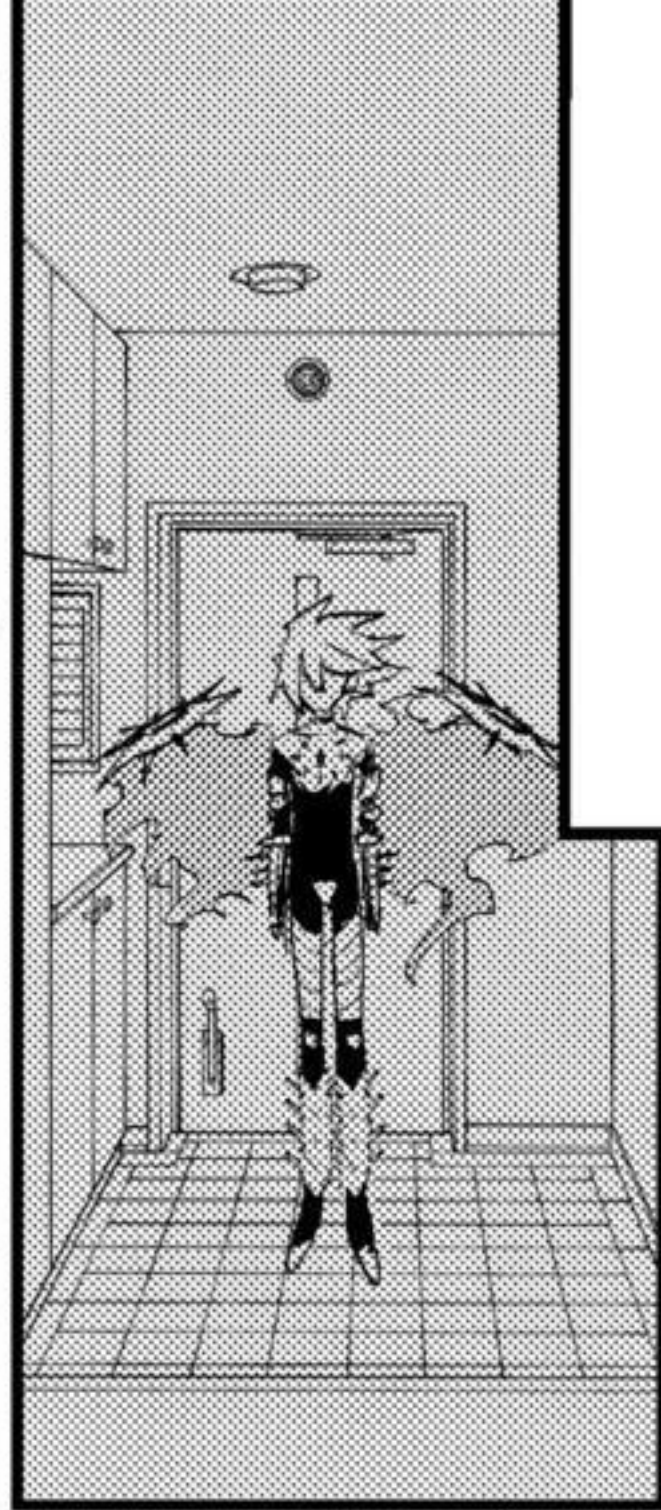


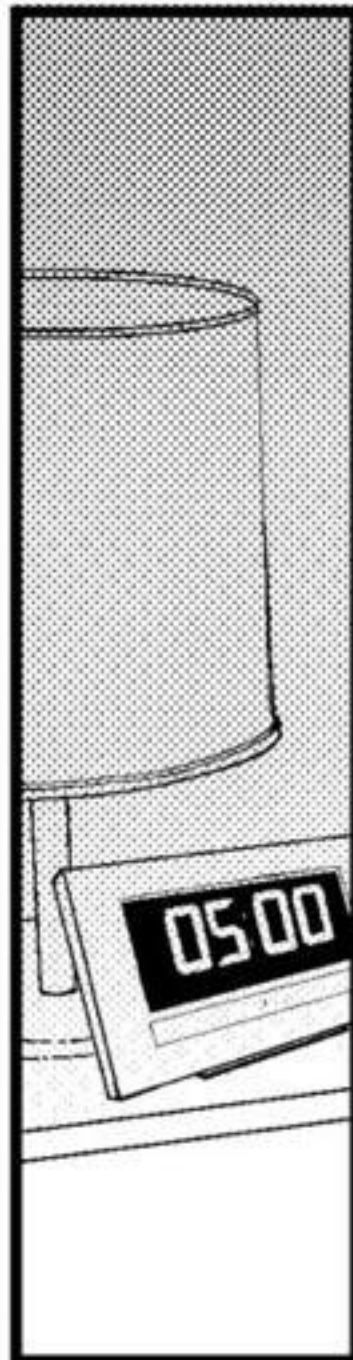
そんな顔は
ここから
消えてしまえば
もう見なくとも
済んだ

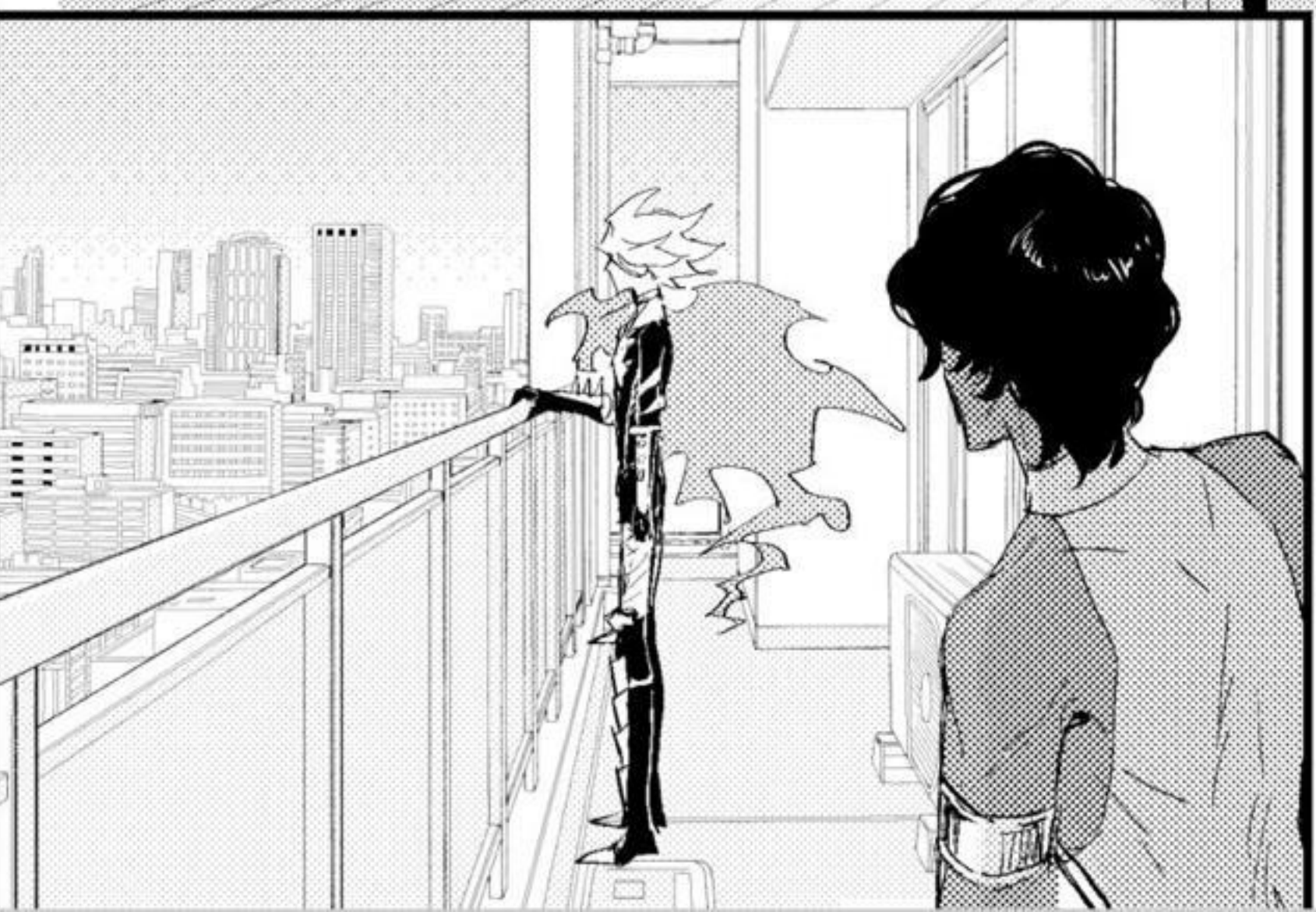


だがオレは
消えろと
言われなかつた
事に安堵したのだ











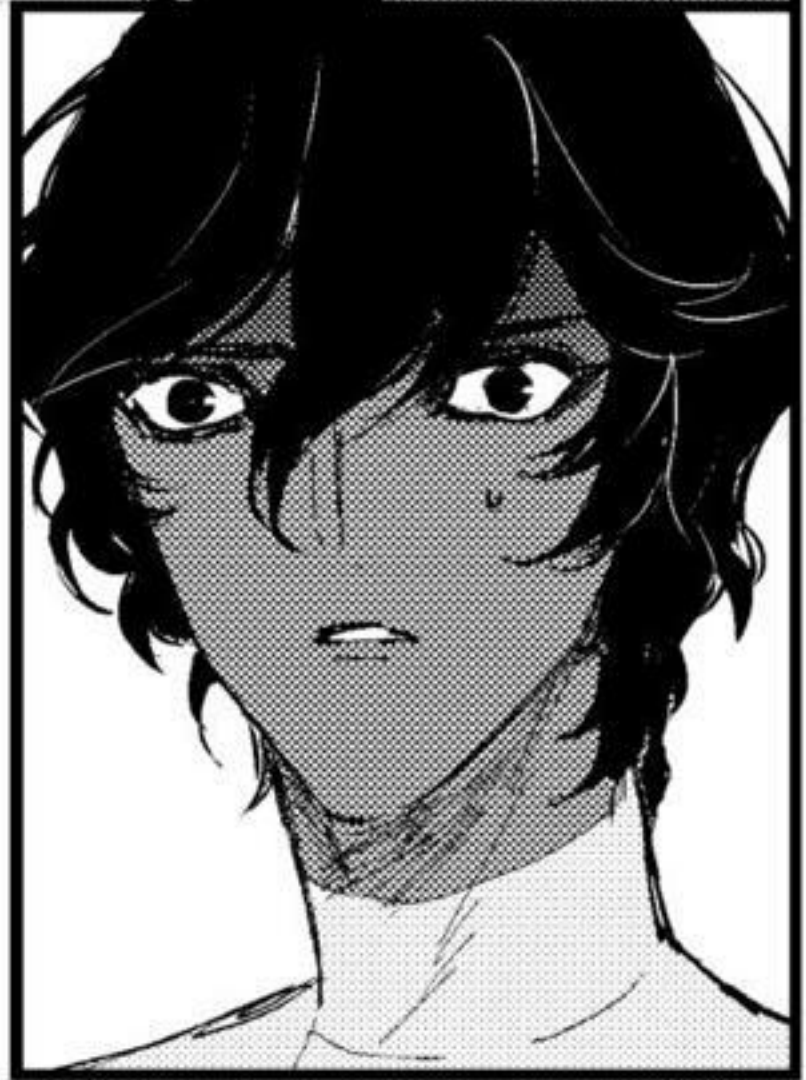
オレは当面
ここから
出ていく気はない



ふむ



……そうか



互いに
難儀なものだな